

ロータリーの歴史年表

2012-13 年度地区会員合同研修セミナー資料

RID2710 PDG 諏訪 昭登

- 1905(M38) : 2月23日、ポール・ハリス他3名（シルベスター・シール、ハイラム・ショーレー、ガスターバス・ローア）がシカゴ・ロータリークラブを設立（ロータリーの創立）（1業種1人の原則）初代会長シルベスター・シール。ロータリーソングの習慣始まる（ハリー・ラグルス）
- 1906 : シカゴ・クラブ定款制定（定款第2条「綱領」に2項目「相互扶助と親睦の概念」を導入。その後ドナルド・カーター直言により1項目「社会奉仕概念」を追加）
- 1907 : ポール・ハリスがシカゴ RC 三代目会長に就任。公衆便所設置運動（1909年設置）。（社会奉仕の実践）
- 1908 : サンフランシスコに2番目のクラブ誕生。ついでオークランド(1909)、シアトル、ロサンゼルス、ニューヨークで RC 設立。シカゴ RC 最初の家族会を開催。シェルドン、ペリーが入会。
- 1910 : 全米ロータリークラブ連合会が誕生し（16RC、1,500人）、ポール・ハリスが初代会長に就任（2ヵ年度）、後年これを RI の創立と位置づけた。チェスリー・ペリーが初代事務総長
: シカゴで第1回ロータリー大会開催。最初のロータリーの綱領制定（親睦が目的から外れ物質的相互扶助からの脱却を図る）
: 大会演説でシェルドン（シカゴ RC）が“He profits most who serves his fellows best.”を発表
: カナダでウィニペグ RC 誕生（米国以外で初、翌年度加盟）
- 1911 : 「The National Rotarian」 発刊（翌年 The Rotarian と改称）、ポール・ハリス「Rational Rotarianism」を掲載（「Toleration: 寛容」の起源）
: ポートランドで第2回大会開催。シェルドンの標語は“He profits most who serves best.”（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）となってロータリー宣言の結語として採択。またコリンズ(ミネアポリス RC)が小旅行企画の船上で、“Service, not self”（超我の奉仕）を発表したと伝えられ、その後“Service above self”に変更され、シェルドンの標語と共に広く使用されるようになる（1921）
- 1912(T1) : 国際ロータリークラブ連合会に改称（ドゥルース大会 50RC 6,000人 グレン・ミード会長 ハリス名誉会長）名誉会員制度採択
: 連合会の綱領とクラブの綱領が分離された（親睦と相互扶助を一掃）
: クラブ綱領5ヵ条を含む模範定款・細則を発表。クラブ綱領に“service”初出
: 歯車のロータリーマーク制定。管区（地区）制制定
: シラキュース RC の身障者対策が、やがてトレド RC やエリリア RC のエドガー・アレン等によって、国際身体障害児協会の設立につながる（社会奉仕活動の顕在化）
- 1913 : 水害援助拠金（オハイオ、インディアナ両州救済合計\$25,000）。身体障害児対策開始（シラキュース RC）。ロータリー年度の表現始まる（7月から6月と決定）
: 道徳律起草の提案（バッファロー大会）。イギリスが BARC 結成（後の RIBI）
- 1914 : 第1次世界大戦(1914~1918) イギリスとアイルランドで戦争避難民救済活動（国際奉仕の萌芽）

- : ロータリー旗採用（ヒューストン大会）。IM 始まる（サンフランシスコ RC とオークランド RC）
- 1915 : サンフランシスコ大会でアイオワ州スー・シティ RC の労作である「ロータリー倫理訓（The Code of Ethics：道徳律）」を採択（**職業奉仕基準の確立**）
 - : 標準クラブ定款と模範クラブ細則を採用（**クラブ管理の標準化**）
 - : 地区制度・ガバナー制度の制定。アディショナル正会員制度の制定
 - : キワニス・クラブ結成
 - : 身体障害児対策を本格開始（トレド RC）
- 1916 : ガイ・ガンデイカー（フィラデルフィア RC）が道徳律を含む「A Talking Knowledge of Rotary(ロータリー通解)」を著し、連合会が出版（**ロータリーの一般奉仕概念の確立**）。青少年活動委員会設立。米国で出席率競争開始
- 1917 : アーチ・克蘭フ RI 会長が財団の前身となる「ロータリー基金」（Rotary Endowment）を提唱（アトランタ大会）（**ロータリー財団の始まり**）。RI 大会の 6 月開催開始
 - : ライオンズ・クラブ国際協会発足 名誉会員制度制定
 - : 身体障害児協会設立（トレド RC）
- 1918 : カンザスシティ RC がカンザスシティ大会の余剰金\$26.50 を基金に寄付（最初の寄付）
 - : 連合会綱領に「ideal of SERVICE」初出
 - : 戦争避難民救済資金募集（アメリカの各クラブ）
- 1919 : 連合会とクラブの綱領が統一される（ソルトレイク・シティ大会）
 - : 地区ガバナー国際会議開催（後の国際協議会）
 - : エリリア RC のエドガー・アレンが国際身体障害児協会を開始
- 1920 : 日本最初のクラブ誕生（東京 RC：登録番号 855、米山梅吉・福島喜三次両氏の尽力による）。少年週間開始（ニューヨーク RC）。奨学金制度開始（アトランタ RC）
- 1921 : 米国外で初めて国際大会を開催（エジンバラ）。これを記念して綱領の中に国際親善と平和の項目を加えることを決定（**国際奉仕の綱領化**）
 - : シェルドンが「ロータリー哲学」講演
 - : ソロプチミスト創立
 - : “Service, not self”がこの頃 “Service above self”に変更される
- 1922 : **国際ロータリー(RI)**に改称（ロサンゼルス大会 1,243RC、81,000 人）
 - : ロータリーの綱領改正（現在の原型、6 ヵ条）。新しい標準 RI 定款・細則及びクラブ定款・細則採択。メイクアップ制度を含む出席規定制定（**クラブ管理の抜本的改正**）
 - : 大阪に RC が誕生（登録番号 1349）。イギリスで RIBI 地域運営が認められる
- 1923 : セントルイス大会で決議 23-34 採択（ウィル・メーニア Jr.、ポール・ウエストバーク）（**ロータリー理念、原則の確立**）
 - : 関東大震災に際し RI と各国 RC から多額の見舞金が贈られる（RI：\$25,000、合計 \$89,000）
- 1924 : ロータリー徽章の正式規格制定。無地区時代日本にスペシャル・コミッショナー初代米山梅吉
- 1926(S1) : 第 1 回太平洋地域大会（ホノルル）
- 1927 : ベルギーのオステン大会で四大奉仕部門を承認。（Aims and Objects Committee: 目標策定委員会）（**四大奉仕への転換**）。道徳律頒布中止。最初の青少年交換
- 1928 : 「ロータリー財団」設立。1931 年信託組織化、1983 年イリノイ州法のもとで非営利財団法人化（**財団活動の確立**）。ビビアン・カーター著「The Meaning of Rotary(ロータリー解析)」出版。ポール・ハリス著「The Founder of Rotary(ロータリーの創設者)」を RI が出版

- : 第 2 回太平洋地域大会（東京）
- : 日本が満州、朝鮮を含む第 70 区に制定される。初代ガバナーに米山梅吉就任。大連 RC 設立。大連 RC の「ロータリー宣言」発表（古沢文作）
- 1929 : モットー廃止提案（ダラス大会 29-7）。世界恐慌（10 月）
- 1930 : ロータリー創立 25 周年。パスト・サービス会員制度制定。青少年交換指針発表
- : 日本スマイル箱の原型（ただし罰金徴収式）が大連 RC で発足
- : ロータリー財団が最初の補助金 500 ドルを拠出（エドガー・アレンの国際身体障害児協会へ）。シェルドン退会
- 1931 : ロータリー財団信託宣言
- : 浄財拠出型スマイル開始（東京 RC）。道徳律頒布禁止。日本第 1 回地区協議会開催（井坂孝ガバナー）
- 1932 : 「**四つのテスト**」創案（ハーバート・テラー）。「国の法律習慣に関する批判」発表
- 1933 : 「ロータリアン間の取引関係」を発表。一都市一 RC 制廃止。
- 1934 : 規定審議会発足。シカゴ大学が「Rotary?」出版
- : 「国事に関する方針の声明」発表
- 1935 : 現在の「ロータリーの綱領」ほぼ完成、前文と四カ条の本文という解釈（**目的の明確化**）
- : ポール・ハリス夫妻来日。国家間訪問（ロータリー友情交換プログラム）設定
- : ポール・ハリス著「This Rotarian Age(ロータリーの理想と友愛)」を RI が出版
- : 「奉仕の理想」「我等の生業」第 70 区京都大会で発表。シェルドン没
- : 弾圧により例会に日の丸・君が代導入（京都 RC）
- 1936 : 「国家有事中のロータリー活動」発表。大連宣言採択（区神戸大会）。ロータリーの日本化運動
- : 「ニコニコ箱」の名称開始（大阪 RC）
- : ドイツでクラブ解散。翌年イタリア・オーストリアで解散
- 1939 : 第 2 次世界大戦(1939-1945)。日本、第 70、71、72 区となる
- : シニア会員制度制定。日満ロータリー連合会結成（区別府大会）。国際身体障害者協会設立（エドガー・アレン）。シニア会員制度実施
- 1940 : 第 1 回日満ロータリー地区連合年次大会（横浜、5 月）。**日本の RC が RI 脱退**(9 月)、名称を変えて各地で例会を続ける。「青少年への奉仕の目標」発表
- 1942 : RI 第 13 地区の大会が 21 カ国政府を代表する関係者をロンドンに招待して教育文化交流機構について協議する会議を開催、これが後にユネスコとして成立
- : チェスリー・ペリー RI 事務総長退任。シニア会員をシニア・アクティブ会員に変更
- : 「ロータリアンに対する事業上の援助と助言」発表
- 1943 : RI 理事会は、1932 年にハーバート・テラー（シカゴ RC）が考案した「**四つのテスト**」を正式採用。1954 年、テラーは RI 会長就任に先立ち版權を RI に寄贈
- 1945 : 49 人のロータリアンが国連憲章起草に参画。ロータリー財団の目標設定。グアム RC が RI 復帰（戦後第 1 号）
- 1946 : 米山梅吉逝去（4 月）。福島喜三次逝去（9 月）
- 1947 : **ポール・ハリス逝去**（1 月 27 日、享年 78 歳）。日本第 1 回復帰協議会開催
- : ポール・ハリスを記念してロータリー財団奨学制度実施（18 人）
- 1948 : 職業奉仕解説書、パーシー・ホジソン著「Service is My Business(奉仕こそわがつとめ)」を RI が出版。ポール・ハリス著「My Road to Rotary(わがロータリーへの道)」を RI が出版。職業奉仕（委）廃止
- 1949 : **日本の RC が RI に復帰**（第 60 地区：東京、京都、大阪、名古屋、神戸、福岡、札幌、他広島含む 13RC）。一都市一 RC 制を完全廃止。ドイツも復帰。国際協議会がシカゴ

中心からレーク・プラシッドに移り“Enter to Learn, Go Forth to Serve”掲示開始(ケン・ガーンジイ 1947-48 RIP 作)

- 1950 : 2つの標語“**He profits most who serves best**”と“**Service above self**”をロータリーモットーとして公式採用(デトロイト大会)
: 日本からの第1期財団親善奨学生送り出し(清水長一米国へ。元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏は翌年の2期生)。中国のRCが解散開始
- 1951 : 「ロータリー倫理訓」本文を手続要覧から削除。中国RC解散。RI加盟認証番号廃止
: ロータリーの綱領の“**Objects**”を“**Object**”に変更、一カ条の主文と四つの付随項目という解釈(アトランティックシティ大会)
: 最初の財団奨学生来日(東大)
: 日本最初のICGF(現IM)開催
: **Aims and Object**委員会廃止。RI加盟承認番号を廃止
- 1952 : 東京RCが米山記念奨学金制度立案(翌年より実施)。「手に手つないで」発表(第60地区大阪大会)
: 日本2地区に分割。ロータリー解説書「**Adventure in Service**(奉仕の冒険)」をRIが出版
: 日本で初めてのライオンズクラブ設立
- 1953 : ロータリーの友創刊。第61地区神戸大会で「手に手つないで」を唄い円陣を作ることが始まる。「それでこそロータリー」発表
- 1954 : 「四つのテスト」版権がRIに寄贈される。「四つのテスト」邦訳決定(本田親男)。エバンストンにRI中央事務局完成
- 1955 : ロータリー創立50周年。ロータリー財団の目標改正。日本4地区に分割
- 1956 : ロータリー財団週間制定。RYLAがオーストラリアで発足
: 規定審議会の最初の隔年会合開催
- 1957 : 全国規模の米山記念奨学委員会設立。財団ポール・ハリス・フェロー開始。日本、5地区に分割
- 1958 : 世界理解週間制定
- 1959 : 財団奨学生の目的を国際理解に変更。日本6地区に分割
: 「**Seven Paths to Peace**(平和への七つの道)」をRIが出版
- 1960 : 日本、7地区に分割
- 1961 : RI第52回東京国際大会開催(参加国及び地域74以上、23,366人、アジアで最初の大会)天皇陛下来臨。日本8地区に分割
- 1962 : 最初のインターアクトクラブがフロリダ州メルボルンに設立され世界各国に拡大(翌年、仙台に日本最初のインターアクトクラブ設立)
: 世界社会奉仕プログラム(WCS)の導入(国際奉仕活動の本格化)
- 1963 : 「国際ロータリーの基本方針」「ロータリーの基本的特色」「国際青少年計画への指針」発表。世界社会奉仕委員会企画発表。ポール・ハリス夫人ジーン逝去
- 1964 : シニア・アクティブ会員、アディショナル会員制度一部改正
: マッチド地区とクラブ・プログラム実施(1963年計画)
: RI文献日本語翻訳配布事務が東京文献事務所へ移行
: 日本10地区に分割。キワニスクラブ日本に渡来
- 1965 : マッチンググラント開始などロータリー財団プログラム改正(各種補助金)。日本11地区に分割。分区代理制開始
- 1966 : 研究グループ交換(GSE)発足。職業分類指針発刊
: WCS財政援助制限撤廃(金銭的援助の緩和)。最初のGSE来日

- 1967 : ロータリー米山記念奨学会を財団法人化。地区出席競争制定。日本 13 地区に分割
- 1968 : 東ヶ崎潔氏 RI 会長に就任(1968-69)
 : ローターアクト計画発表 (同年、川越に日本最初のローターアクトクラブ設立)
 : 海外ロータリー・ボランティア制度発足。世界親睦活動発足。居住地会員制度制定。アーチ・クラフ賞設定。日本 14 地区に分割
- 1969 : 青少年活動週間制定。地区幹事・地区会計制度制定
- 1970 : 規定審議会を RI の立法機関として決定 (**組織の立法化**)
 : 日本ロータリー50 周年。「ロータリー資料室 (現ロータリー文庫)」設立
 : シニア・アクティブ会員制度一部改正。日本 17 地区に分割
- 1971 : 1959 年オーストラリアとニュージーランドで開発されたロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA) を公式採用 (1976 年、大阪と和歌山で日本で初めて RYLA 実施)。
 世界社会奉仕推進強調
 : 「公害防止の指針」発表。日本 18 地区に分割
 : 「ロータリー日本 50 年史」出版。ロータリー重要文献日本語訳改定実施
- 1972 : 「環境の改善」発表。RI の立法機関としての規定審議会が初開催 (ヒューストン大会)
 : 第 1 回ロータリー研究会
- 1973 : 日本 20 地区に分割
- 1974 : 青少年交換プログラム始まる。環境保全と資源問題の委員会設置。意義ある業績賞復活。
- 1975 : 「国法の遵守」発表。「ロータリーの友」英語版創刊。規定審議会 3 年毎開催始まる。
 RI 第 366 地区 (大阪・和歌山) で RYLA を日本で初開催
- 1976 : ロータリーの目的 (定義) 発表
- 1977 : 日本 22 地区に分割
- 1978 : RI 第 69 回東京国際大会開催 (参加国及び地域 95 以上、39,834 人)
 : 保健・飢餓追放・人間尊重 (3-H) プログラム発表 (**RI 主導型奉仕活動**)
 : 米国カリフォルニア州デュアルテ RC が女性入会を認めたため RI が除名、その後裁判となる。日本 23 地区に分割。ロータリーの目的 (定義) 手続要覧に掲載
- 1979 : 職業奉仕週間新設。フィリピンでポリオ予防接種開始 (3H 補助金第 1 号)
- 1980 : ロータリー創立 75 周年に合わせ **3-H プログラム推進**。「ロータリーの友」公式地域誌に認定。日本 24 地区に分割
 : 「道徳律」(RI 細則第 16 条)を完全削除
- 1981 : RI 日本支局開設 (現日本事務局)
- 1982 : 向笠広次氏 RI 会長に就任(1982-83)。日本 26 地区に分割。「日本ロータリー60 年史」出版
- 1984 : 「ロータリーの基本的特色」発表。「ロータリーの目的」を「ロータリーの定義」と改正。
 : 決議 23-34 が手続要覧から削除
- 1985 : ロータリー創立 80 周年。「ポリオ・プラス計画」を発表 (翌年より実施) (**ポリオ撲滅運動の推進**)。日本 27 地区に分割
- 1986 : ロータリアンが 100 万人を突破、日本では 10 万人を超える
 : 決議 23-34 が手続要覧に復活
- 1987 : RI 職業奉仕委員会復活 (40 年ぶり)。職業奉仕に関する声明発表 (**職業奉仕概念の変更**)。日本 28 地区に分割
- 1988 : 広島で第 4 回ロータリー平和会議開催
 : 「他団体への協力」発表。ロータリー理解推進月間・会員増強拡大月間新設

- 1989(H1) : **女性ロータリアンを認める** (シンガポール規定審議会)。日本最初の女性会員誕生 (第 2500 地区 清水 RC)
 : 「**ロータリアンの職業宣言**」採択。“Service above self” (超我の奉仕) が第 1 標語となる。「ロータリーの定義」文言改正
 : 綱領の和訳文変更。日本 30 地区に分割
- 1990 : IGF を IM に呼称変更 (日本)
 : 「子供の権利」発表。ロータリー財団寄付シェア・システムに改正。「われらの天体、地球の保全プログラム」発表
- 1991 : 日本ポリオ・プラスキャンペーン終了 (募金総額 49 億円)。その後、財団ベースで継続
 : シェアシステム採用。「国際ロータリーの使命」発表 (**団体奉仕活動の提唱**)。日本 31 地区に分割
- 1992 : 社会奉仕に関する声明 (決議 92-286) 採択 (**社会奉仕基準の改正**)
 : 環境保全 (決議 92-287) を発表。アディショナル正会員制度一部改正。日本 33 地区に分割
- 1993 : 世界社会奉仕の目標発表
- 1994 : 日本 34 地区に分割
- 1995 : メークアップ期間の延長。パスト・サービス会員資格改正。「家族」構想開始。家族週間指定。「ロータリーの定義」改正
- 1996 : 各地で新世代会議開催
 : 「女性のニーズに応えるロータリー活動声明」採択
- 1997 : ニュージーリーダーシップ・プラン採用。「ロータリー家族」構想
- 1998 : ロータリーセンターの設置 (日本では 2002 年、国際基督教大学に設立)。出席規定適用免除改正。「国際ロータリーの使命」改正
- 2000 : 日本 35 地区に分割。CAP (地域社会援助プログラム、後の地区補助金) 開始
- 2001 : 正会員と名誉会員に統合、シニア、パスト、アディショナル会員廃止。**1 業種 1 会員制変更**。サイバー RC テスト認可。メークアップ規定の変更。「国際ロータリーの使命」改正
- 2002 : 1993 年に試験的に実施され 1996 年に推奨プランとなった地区リーダーシッププラン (DLP) が義務的实施となる (**ロータリー第 2 世紀への体制強化**)。ロータリー世界平和フェロー第 1 期生入学。日本 34 地区に再編成
 : 創立 100 周年に向けて「ポリオ撲滅キャンペーン」展開
- 2003 : 「ロータリー家族」を RI 会長強調事項とした。家族月間設定
- 2004 : “He profits most…”を“**They profit most**…”に改正
 : 2000 年より DLP に連動するクラブ管理プランとして検討され 2003 年より試験的推奨が始まっていたクラブリーダーシッププラン (CLP) の推奨クラブ細則が発表された
 : 「ロータリーの基本的特色」削除、「ロータリーの定義」表示消去
 : RI 第 95 回大阪国際大会 (参加国及び地域 112 以上、45,595 人)
- 2005 : ロータリー創立 100 周年記念大会 (シカゴ、参加国及び地域 161 以上、39,460 人)
 : 日本に財団学友による RC 誕生 (神奈川 2007 年に大阪でも誕生)。CLP 推奨細則一部改正
- 2006 : 財団の「未来の夢計画」始動 (**財団の新方針**)
 : 「国際ロータリーの使命」改訂
- 2007 : 会員資格の変更 (財団学友、ボランティアリーダーの入会可)
 : 四大奉仕部門をロータリークラブ定款に明記 (2010 年に五大奉仕となる)
 : ポリオ撲滅へのビル・ゲイツ財団寄付に対応してロータリー 1 億ドルチャレンジグラン

- ト発表（翌年より 2 億ドルを目標として 2012 年 6 月末まで継続）
- : RI 長期計画（2007-10）発表。「国際ロータリーの使命」改正
 - : ロータリー財団の使命、標語(Doing good in the world)、優先事項など採択
 - 2008 : 決議 23-34 がロータリー章典から抹消（手続要覧には記載）
 - 2009 : RI 第 100 回バーミングハム国際大会（参加国及び地域 157 以上、16,062 人）。RI 職業奉仕委員会再復活。公式名簿巻末の“ideal of Service”説明文削除・改変
 - 2010 : **新世代奉仕**が加わり五大奉仕となる
 - : “They profit most・・・”を“**One profits most・・・**”に変更
 - : 4 月の規定審議会で決議 23-34 第 1 項を奉仕の哲学の定義として使用することを検討するよう RI 理事会に要請する件採択。6 月理事会で確定。決議 23-34 のロータリー章典、手続要覧両方への掲載決定（**ロータリー理念の再確認**）
 - : RI 新長期計画発表（2010-13）。E クラブ承認
 - : 「ロータリーの定義」的説明文削除。「国際ロータリーのビジョン」「中核となる価値観」発表
 - 2011 : 「ロータリアンの職業宣言」を「**ロータリーの行動規範**」と改正変更。WCS（世界社会奉仕）が廃止され国際奉仕に一元化
 - : RI 長期計画は RI の「ビジョン」を「本質」と改正。10 月には「長期計画」（和訳名）を「戦略計画」と改称。**One Rotary 構想推進**
 - : RI 職業奉仕委員会を RI 職業奉仕推進委員会と改称
 - 2012 : 田中作次氏 RI 会長に就任(2012-13)
 - : ポリオ撲滅ロータリー 2 億ドルチャレンジグラント達成
 - 2013 : “Object of Rotary”の日本語訳「ロータリーの綱領」が「ロータリーの目的」と変更され内容の訳文も改正された
 - : 新世代奉仕を青少年奉仕と改称。E クラブ数制限撤廃
 - : 広島でロータリー世界平和フォーラム開催（ベルリン、ホノルルに次いで）
 - : ロータリー財団新補助金プログラム「未来の夢計画」実施

主参考資料

- RI 「奉仕の冒険」
- RI 「奉仕の一世紀」
- 「ロータリー日本 50 年史」
- 「ロータリー日本 60 年史」
- 田中毅、足立功一 PDG 年表